山口 誓子碑石

板取川のほとりにある 2 つの石碑は、俳人・山口誓子（1901～1994 年）が、1956 年に美濃を訪れたことを記念して建てられたものです。山口誓子は、20 世紀の俳句の第一人者として知られています。彼の作品は、日常生活から引き出されたモダンなイメージが特徴的でした。山口の俳句には、映画のワンシーンのような、生活の様子を伝える話し言葉が頻繁に用いられていました。

美濃での滞在中、山口は和紙作りに関する俳句を書いています。山口の言葉は、和紙の一枚一枚を丹精込めて作る和紙職人の献身を捉えています。その俳句が、石碑の一つに彫られています。

一枚を
念ずるごとく
紙漉けり

Sheet by sheet

Screened with

Heart

and

soul